

今週の為替相場見通し(2021年10月4日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.53 ~ 112.08	111.08	110.20 ~ 111.70
ユーロ	(ドル)		1.1563 ~ 1.1730	1.1594	1.1500 ~ 1.1700
(1ユーロ=)	(円)		128.57 ~ 130.46	128.76	127.00 ~ 129.50
英ポンド	(ドル)		1.3412 ~ 1.3728	1.3543	1.3400 ~ 1.3600
(1英ポンド=)	(円)	*	149.23 ~ 152.57	150.47	149.00 ~ 151.50
豪ドル	(ドル)		0.7171 ~ 0.7311	0.7268	0.7150 ~ 0.7350
(1豪ドル=)	(円)	*	79.90 ~ 81.32	80.67	79.50 ~ 81.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 大谷 未央

(1)今週の予想レンジ: 110.20 ~ 111.70 円

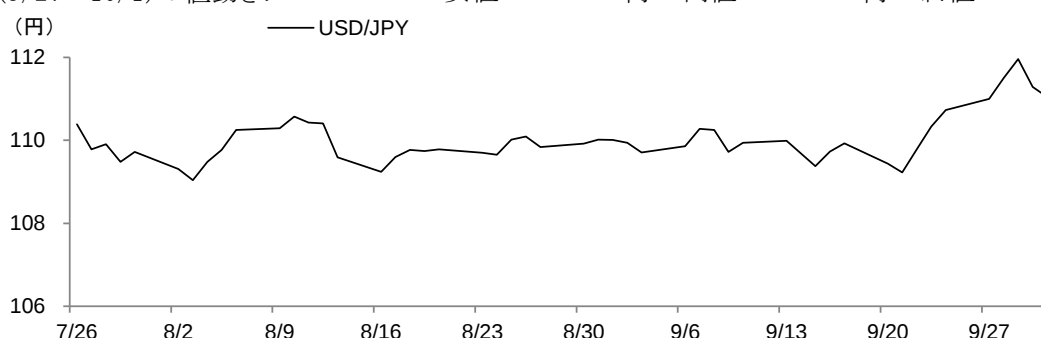
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル円/相場は初来高値を更新するも週後半には反落する展開。週初27日110.77円でオープンしたドル円相場は、米10年債利回りが低下する中、週安値である110.53円まで下落した。その後は中国不動産大手企業を巡るデフォルト懸念が一旦和らぎ、ドル買い地合いが継続。米長期金利上昇を好ましじり高の展開で111円台前半まで上昇した。翌28日は、米金利上昇を背景に111.60円台まで上昇。その後米9月消費者信頼感指数が低下したことでドル売りとなり、111.20円台まで下落したものの、再び米長期金利が持ち直す動きに、111円台半ばまで下落幅を縮小させた。29日は月末絡みのドル買いや米長期金利が上昇する中でドル円は112円を突破しその後も高値圏を維持した。30日は前日からのドル買いの流れが途切れず年初来高値を更新、約1年7か月の水準の112.08円まで上昇するも、その後は株価の下落やポジション調整の動きが散見され、111円台前半まで反落した。10月1日は日経平均株価が700円弱下落し、米長期金利も低下する中ドル円は上値重い値動きが継続。また期末のドル買いを通過したことからドルが売り戻される動きもあり、ドル円は110.90円台まで下落し、結局111.08円で越週した。

今週のドル円相場は、上値重い値動きを予想する。先週のドル円はFOMCの結果を受けた米金利上昇からドル高となり、一時年初来高値を更新する場面が見られた。しかし、米長期金利については1.50%台で一服感が見られていることや、ドル円も年初来高値を更新したことで達成感があり、今週のドル円相場は上値重い展開を予想する。米国の債務上限問題については、与野党の対立が続いており、引き続き米議会を巡る不透明感は強い。イエレン財務長官は10月18日(月)にも政府資金が枯渇する恐れがあると述べているが、時限が近づくにつれリスクオフになりやすい展開には注意したい。また、今週は8日(金)に米9月雇用統計の発表を予定している。市場予想は前月比+50万人と伸びが回復することが見込まれている。FRBによる年内テーパリングは市場のコンセンサスとして織り込まれており、多少弱い数字になったとしてもドル円への影響は限定的であると考え。重要な経済指標としては、4日(月)に米8月製造業受注/耐久財受注(確報)、5日(火)に米8月貿易収支、米9月ISM非製造業景気指数、6日(水)に米9月ADP雇用統計、7日(木)に米8月消費者信用残高、8日(金)に米9月雇用統計の発表を予定している。

(3)先週までの相場の推移

先週(9/27~10/1)の値動き: 安値 110.53 円 高値 112.08 円 終値 111.08 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 玉井 美季子

(1) 今週の予想レンジ: 1.1500 ~ 1.1700 127.00 ~ 129.50 円

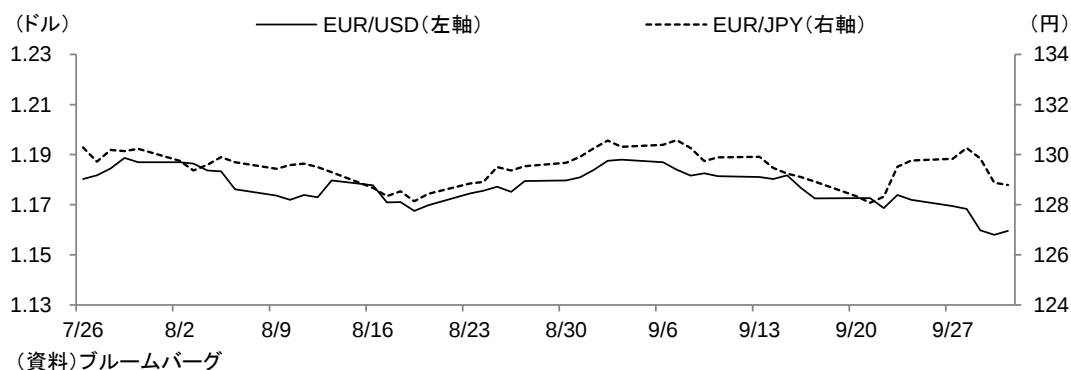
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は年初来安値を更新した。週初27日、1.1720付近でオープンしたユーロ/ドルは週高値の1.1730を付けた後、米金利上昇を受けたドル買いが強まったことから1.16台後半まで下落。その後は小幅に反発するも戻りは鈍く、1.17付近で上値重く推移した。28日、1.16台後半で上値重く推移していたユーロ/ドルは米金利低下によるドル売りから1.17台を回復したが、ドル売り一巡後は1.16台半ばまで値を下げ、方向感のない値動きとなった。29日、アジア時間は1.16台半ば付近で小動きだったが、前日同様ドル買い地合いの流れは止まらず1.15台後半まで続落し、その後も安値圏での軟調推移となった。30日、株安を受けたユーロ/円の売りに連れ安となり、1.1563まで下落し年初来安値を更新した。月初10月1日はアジア・欧州株軟調な中、上値の重い動きが続いたが、その後はドル売り優勢の展開に1.16台を回復。ただ、ユーロ/ポンドの下落に上値を抑えられ1.1594で越週した。

今週のユーロは上値の重い動きを予想する。急速にドル高が進んだため、来週は調整が入る場面もあると思われるが、FRBの早期緩和縮小が意識される中、ドル高が継続するだろう。8日(金)には米9月雇用統計が発表される。米8月雇用統計の結果が弱かったにも関わらずFRBは緩和縮小路線を変更しなかったことで、多少市場予想を下ぶれても反応は限定的になる可能性がある一方で、予想を上回る場合には早期利上げが意識され、ドル買いの後押しとなりそう。また独総選挙ではメルケル首相率いるキリスト教民主/社会同盟(CDU/CSU)を抑え社会民主党(SPD)が勝利した。ただ、過半数を取ることはできず連立政権樹立に向け交渉が行われているものの、前回半年ほどかかったことを考えると今回も政治空白期間が長くなることが予想される。こちらも長い目で見ればユーロの重しとなろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(9/27~10/1)の値動き: (対ドル) 安値 1.1563 高値 1.1730 終値 1.1594
(対円) 安値 128.57 高値 130.46 終値 128.76



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3400 ~ 1.3600 149.00 ~ 151.50 円

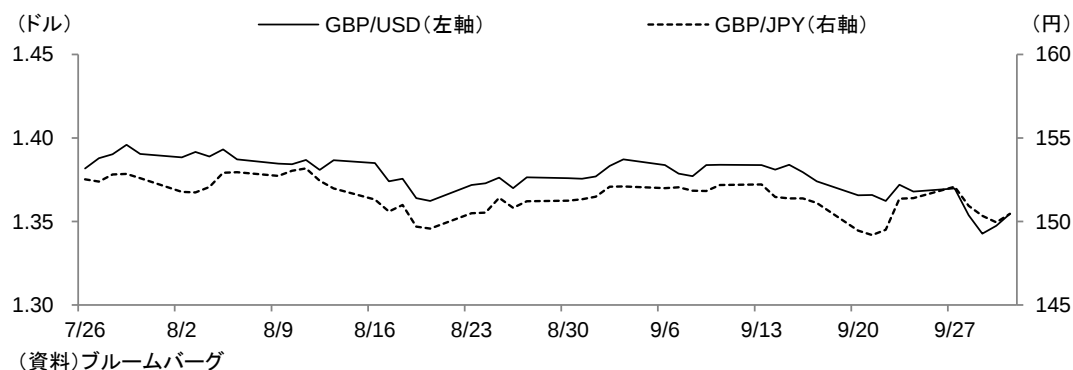
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、下落。28日に前後して全面安に陥り、週引けを前に、若干の反発を見せたものの、対ドル、対円では前週末比で水準を切り下げて引けた。ポンド安の主因は、英国内のガソリン不足と考えられた。英国内では、夏前から長距離トラックの運転手不足が懸念されていたが、物資不足は、新たに農産物収穫のための季節労働者不足などが、遅くとも9月半ばまでには顕在化。更に、二酸化炭素の枯渇という形で巷間を賑わした。二酸化炭素は、食肉用家畜の「安楽死」に広く活用されている他、飲料、更には医療品などに幅広い需要があるが、英国内の供給はたった二箇所の大手肥料工場にほとんど依存していた。肥料製造の副産物として二酸化炭素を出荷していた当該二工場が、天然ガス価格高騰を受けて操業を停止、運転手不足と併せて、「クリスマスに七面鳥が食べられない」などという懸念が広がっていた。最終的にポンドの値動きに大きな影響が現れたきっかけは、28日に前後して広がったガソリン不足に対する懸念。英国各地で給油のためにガソリンスタンドを訪れた車の長大な列の映像を、テレビ報道などで盛んに目にするようになったことがきっかけと思われた。並行して、米長期金利の高止まりを材料としたドル全面高が進んでいたことで、ポンドは特に対ドルで急落、29日までに、昨年12月来となる1.3412まで安値を広げた。その後、政府は、長距離トラック運転手5,000人、農業従事者5,500人分の臨時(3か月)ビザをEU国籍の労働者に発行するとし、ガソリン配給に軍の出動を準備したと発表。ガソリン不足がロンドンやイングランド南東部の一部を除いて解消に向かったことが、週引けに掛け、或いはポンドの反発に寄与したものと考えられた。

今週の英ポンド相場は、軟調推移継続を予想。今般のガソリン不足は、英国の抱える様々な問題を浮き彫りにした。仮にガソリン不足が解消したとしても、天然ガス価格急騰を受けた燃料/電気料金の高騰/高止まりが、これから始まる需要期(冬)を前に、解消する目処は立たないであろう。それ以上に懸念されるのは、今般の経緯が、英国民の英政府に対する信頼を大きく失墜させた可能性。ひとつには、今般、ガソリン不足が問題視されてからも、シャップ運輸相などは「ガソリンは国内に潤沢にある」「これは(メディアによって)作られたパニックだ」などと主張、まるで長蛇の列に加わる消費者の責任を咎めるかのような発言を繰り返していた。英国内に、需要を満たすだけのガソリンが貯蔵されていたのはおそらく事実だろう。しかし、それが消費者の手に届かないのでは意味がないのも事実。パニックに陥った民衆に、「パニックするな」と呼び掛けるだけでパニックが収まるなら、そもそもパニックなど起きるはずもない。より深刻なのは、事がパニックにまで陥る過程で、トラック運転手不足、農業従事者不足、二酸化炭素不足と、いくつも見られた予兆を、政府が完全に見逃してきたこと。EU国籍労働者に臨時ビザ給付を、という産業界からの要請に、政府は、「英国人を雇え」と言うばかりで、少なくとも数週間以上、なんの対応も取らなかった。勿論、そこには、「それ(英国人の雇用創出)こそがブレクジットの目的のひとつ」との判断もあったことだろう。それでも、政府の対応が後手に回り、誰がどう見ても「パニック」と言える事態を引き起こしてしまった事実は、英国政府の経済政策運営に対する信頼に大きな傷を残したものである。ポンドは材料視しなかったものの、この間、英政府が北アイルランド議定書の16条を発動する可能性を仄めかしたのも、懸念材料。EUとの取り決めを、一方的に棚上げにする同条発動は、既に大きく損なわれたEUとの信頼関係を一段と傷つけることになる。一国の通貨の安定は、その国に対する信頼あってこそと思われるが、自国民からも、隣国からも信頼されなくなった国の通貨が安定するとは考え難いものと思われる。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(9/27~10/1)の値動き: (対ドル) 安値 1.3412 高値 1.3728 終値 1.3543
(対円) 安値 149.23 高値 152.57 終値 150.47



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 川口 志保

(1) 今週の予想レンジ: 0.7150 ~ 0.7350 79.50 ~ 81.50 円

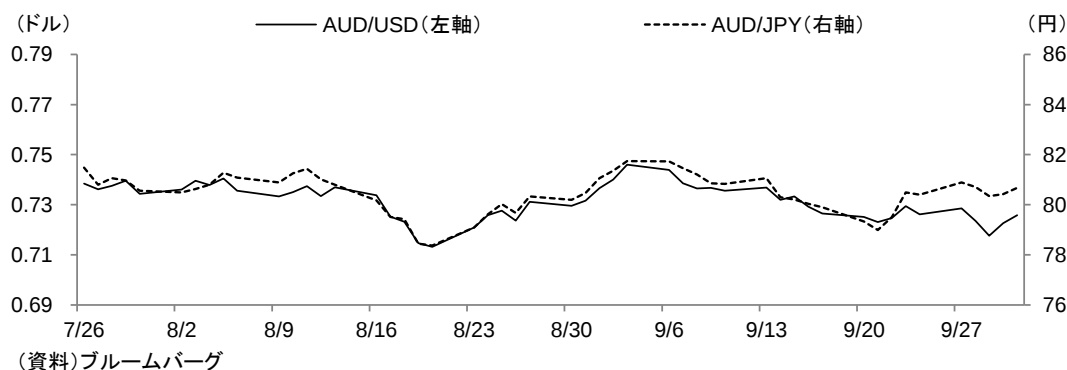
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週月末週の豪ドルは週前半に0.73台前半まで上値を伸ばすも、週後半には米10年債金利が1.55%台へ上昇するとドル買いの流れから0.71台後半へ下落し、直近レンジの下限であった0.7220を下抜けした。27日は0.72台後半で推移。前週のFOMCで「11月にテーバリングを開始し、来年にも利上げする可能性」が示唆されたことを受けて米10年債利回りは一時1.5%まで、米5年債利回りは0.99%まで上昇し、ドル買いの流れから0.72台半ばまで下落。一方で世界的にエネルギーコモディティの需給が逼迫している状況を受け、石炭や原油価格等が上昇する場面ではNY時間に0.7290越えした。28日は豪8月小売売上高が市場予想より小幅な減少となり、またエネルギー系コモディティ価格が上昇し、ブレント原油が2018年10月以来の高値を付けた事を背景に0.73台へのせた。但しその後ロンドン入りからNY時間にかけてはインフレの高まりや連邦債務上限引き上げを巡る事態打開への見通しに対する懸念から米10年債金利が上昇。米株も大幅安となり豪ドルは0.7225近辺まで下落した。29日は米10年債金利が再び1.55%をつける展開にドル全面高となり、ドルインデックスは2020年11月以来の高値を付け、豪ドルは直近のサポートとなっていた0.7220を割り、0.7170近辺まで下落した。30日は0.71台後半から0.72台前半へ上昇。ロンドンFIXにかけては米金利が下げ、月末調整フローでドル売りが優勢となり、豪ドルは一時0.7260近辺まで上昇した。しかし、NY時間では米株S&P500が下げ、月間ベースで2020年3月以来の大幅安となり、豪ドルは0.72台前半へ下落した。米債務上限を巡るつなぎ予算が米下院で可決され政府閉鎖は一旦回避される見通しとなり、米金利上昇は一服した。1日は米債利回りが低下した事でドル売りが優勢となり、また経口抗新型コロナウイルス薬で死亡リスクが半減したとの治験中間分析を受け、経済回復期待から株式が反発すると豪ドルは0.72台後半まで戻して越週した。

今週は5日(火)にRBA理事会、8日(金)に米9月雇用統計を控え、消化材料が多いが再びレンジとなる可能性が高いとみる。先週、主な材料となっていた米金利は米議会がつなぎ予算案可決後に上昇が一服しており、米金利を背景に豪ドルが振られるリスクが和らいでいる。しかし、FRBが早ければ来年末にも利上げに踏み切るとの見方が強まっており、傾向性としては豪ドルは頭を抑えられる可能性が高いとみる。この他の注目材料としては5日のRBA理事会である。債券購入プログラムの見直しは前回の理事会で2月まで延長されており、金融政策スタンスは現状維持が見込まれるが、来週11日(月)から予定されているNSW州でのロックダウン解除を目前に景気見通しに注目が集まる。(NSW州では10月6日(水)に2回目のワクチン接種率が70%に達し、翌月曜の11日よりロックダウンが徐々に解除される見込みとなっている。)その他、足許のマーケットリスクとしては高インフレ、サプライチェーンの問題、世界的なエネルギー需給の逼迫した状況などがあり、LNGや石炭価格の高騰にも注目したい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(9/27~10/1)の値動き: (対ドル) 安値 0.7171 高値 0.7311 終値 0.7268
(対円) 安値 79.90 高値 81.32 終値 80.67



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。